

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 湖畔幼稚園

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒085-0806

E-mail : _____

Website : _____

児童生徒数：男子 58 名 女子 66 名 合計 124 名
 児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域交流）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

《2013年度活動報告》

当幼稚園のユネスコ活動は次の3つを柱とし、カリキュラムに組み入れ、ねらいをもって行われている。下記に主な活動内容について報告する。

- 1、環境教育
- 2、国際理解
- 3、地域交流

1、環境教育

今年度は第4回ESDアシストプロジェクトに参加し、特に栽培活動に力点を置き、3つの目的をもって取り組まれた。

2年目となった園外に畑を借りての栽培活動は、園舎前の限られたスペースだけでは得ることのできない広い大地でのダイナミックな栽培活動が実現し、得難い体験となっており、目的①～栽培活動を通じて、心身の安定を図りつつ、生命の大切さを実感する。～を十分に達成することができた。

園外の畑での作業は、バスで1時間という移動時間がかかるため、活動時間が限られた短い時間となり、又、何度も赴くことができず、間近に成長を観察したり、世話を日々行うことができないなどのデメリットはあるものの、広い畑で土に触れ、自然を感じることができる年長児の貴重な体験の場となった。遠距離のため、何度も行って作業することができない対策として、前もって園内で、じゃがいもの植え付け準備や玉ねぎなどの芽だし作業を行なうなどし、畑への植え付けを行うなどの工夫をした。

草取り作業では、じゃがいもが成長するとともに、周りの草もどんどん伸びていることに驚いた子どもたちだが、積極的に草取り作業を行った。又、農薬をつかっていないため、テントウムシが葉を穴だらけにしているのを発見し、テントウムシや卵の駆除も行った。普段であれば可愛がる虫を害虫として駆除することの矛盾もあったが、じゃがいもがいっぱい採れるようにと、願いを込めての作業となった。

長雨などの天候不順や種いもの状態があまり良いものでなかったため、予想よりは少ない収穫量となったものの、十分な量のじゃがいも、人参や玉ねぎを収穫することができ、カレーの材料を揃えることができた。又、他の野菜は全体的にはあまり、収穫に繋がらず、天気などによって採れないことも学ぶことができた。

その他、園庭での栽培活動を全学年で取り組むことができた。園庭での栽培活動は、その工程を日々の園生活の中で間近に体験することができ、これらの栽培活動によって、たくさんの収穫を楽しむことができた。園庭でできたものは、子どもたちの小さな手で採られて、新鮮なうちに食べるようにし、“おいしい”とを感じることを大切にしたい。食育活動の観点からも、生命の恵みを直に感じる良き経験となった。

また、年長児の取り組みである畑での栽培活動によって、カレー作りの材料が整い、カレーライスを作って、全園児を招待して食べてもらう取り組み《カレーパーティ》が行われた。そのために、カレーに必要なカレールーなどの買い出しやカレー作り作業、カレーパーティーの会場準備などを行い、カレーを食べて喜んでもらうことを通じて、大きな喜びを得ることができた。目的②にあげた～収穫物を用いた食育を実施することにより、自然の恵みに感謝する心を養う。～点で十分な取り組みが成された。

3つ目の目的は～栽培活動の全活動を通じて、地域の方々との交流を積極的に図ることにより、地域とのつながりを深める。～とし、栽培活動を通じて得た収穫物を“近隣の方にも”、と子どもたちの手で手渡しをした。「どうぞ食べてください」と差し出す子どもたちの手と受け取る大人の手の間には、野菜と共に、優しい心が通い合い、大きな喜びを得ることができた。地域に守られてきた幼稚園の子どもたちが、地域に何かできることはないか、と思案してきたが、収穫物を通じて地域の方とのつながりを深めるとともに、役に立つ喜びを味わうことができた



2、国際理解

今年度も、“えいごあそび”をアメリカ人英語講師にお願いをし、通年で取り組まれた。“えいごあそび”は単に英語教育ということではなく、子どもたちが肌で感じることのできる国際理解を目指した。“えいごあそび”の中では英語に興味を持つことはもちろんだが、自分たちとの人種や感覚の違いを、楽しい遊びの中で体験することができている。

また、秋には保護者と子どもたちが一緒に参加する講演会にドイツ人の方を講師としてお願いをし、羊毛を使ったマスコットづくりを体験することができた。ここでも、“えいごあそび”同様、肌で感じる国際理解を目的とした。

上記は直接的な学びの良き機会となった。加えて、子どもたちは環境教育の中でテーマの一つである収集活動にかかわることで、エコキャップや古切手など集めたものがどのように役に立つかを知ることができ、それらの中で、自分たちの知らない国内・外の事情にも触れることができた。

一方日本の文化を知り、大切にする取り組みがより一層深められ、わらべうたや伝承遊び、着物を着て楽しんだり、抹茶を味わうなども体験することができ、様々な面での国際理解を深めることができた。



3、地域交流

栽培活動で得た収穫物をプレゼントすることなどによって、地域の方々の顔が見えるようになり、地域交流を深める大切な活動の一つとなっている。

また、近隣には多数の老健施設が点在しており、幼稚園の担う役割の大きさを実感していることとして、“ふれあいデー”“ふれあいタイム”が行われた。“ふれあいデー”は子どもたちが施設訪問し、施設利用者の方々との触れ合う場となっている。“ふれあいタイム”は施設の方々が園を訪問してくださるもので、園で子どもたちと遊んだり、触れ合うことが励みとなって、認知症の方々においても、「車いす使用の方が自力歩行をすることができるようになった。」などの大きな成果が報告されている。

今後、地域における幼稚園の課題に着目して、引き続き取り組みを行う。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）